

# 幼稚園

## の子ども

## の生活

お茶の水女子大学  
付属幼稚園



◇九・〇五

先生は母親と話をしている。

保育室の左側では箱積木を椅子や机にして、右側では、ままごとの机、椅子で各々ままごとをしている。

へやには机が四つと、大工道具をのせた机、展示物をのせた机がある。今これらに記号をつけて、

箱積木のところを左、ままごとの机を右、大工道具の机を①、他の机を②③④⑤、展示の机を⑥とよぶことにする。

この記録は、お茶の水女子大学附属幼稚園のクラスに、ある日突然にいつて記録したものです。記録者は三名で分担して、あとで一つにまとめたものです。できるだけなまの記録がそのままに出るようにつとめました。よくみていただければ午前中の保育の流れをつかんでいただけたと思います。午後、食事後の一時間は子どもにとってもっとも有効な時間ですが、あまり記録がかさむので今回は割愛しました。

左 C子・だまっておかまに果物（できた物）を盛ったり、お皿へ小さい積木を入れたりしている。

D男・椅子にすわってむしゃむしゃ食べるまねをしている。

右 A子・B子がままごとの買物かごの中へぬいぐるみのうきぎやふとんを入れ、肩をくんで左の家へ行く。

A子・B子「入れて」二人はだまって椅子にかけ、また立って手をつないで家の中を歩き、小さい積木をなくさん持って右へ行く。

C子は、黙々とおかまへ果物を盛っている。二人の男児が三角

の箱積木の上へ、うすい板をのせてシーソーをしている。

男女児五人、一列に並んで背くらべをする。

②の机で四人絵本をよんでいる。

男児二人、ラケットを銃にして打ち合い。

### ◇九・一〇

右 A子・B子だまってお皿へ積木をつんでケーキをつくり、左の家へ来る。A子・B子「こんにちわ。」C子は三角の箱積木を二つおき、それへ板をたてかけてつくった門の戸を横へひいてあける。A子・B子いすにすわる。A子「つまらないものですけれど。」とお皿へ盛って来たケーキをC子に渡す。C子だまって受け取る。A子とB子は、しばらくすわっていてまた手をつないで右へ帰っていく。

女児ひとり黒板に絵を書く。何度も書いたり消したりしている。そばで女児ひとりこれを見ている。

⑥の机 五人で二冊の絵本をよんでいる。

M男 「これ特急列車だよ。」

通りかかったK男のぞき込む。

M男 「いやだったらいやだ。今人がみているんだから。」

Z男 「夢の特急列車だ。」

H男 登園する。

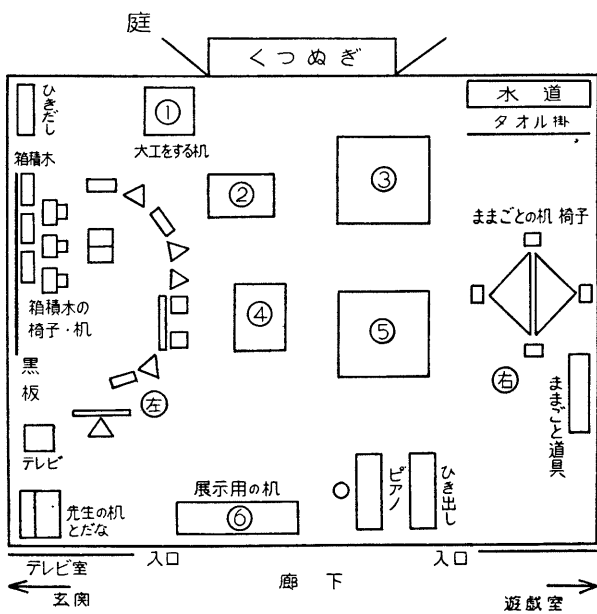
H男 「きみ、きのうの模擬テストにきたろう？」

T男 「きのう簡単だったな。」

H男 「カム・ヒヤー。」と廊下を出て遊戯室へ行く。

右 A子・B子かごにつめかえしている時、G子、加わりたくて

——保育室の見取図——



「ごめんください。」

A子「わたしこのうちじゃないの。」

G子「ごめんください。」B子「お友だちがしているのよ。」

A子B子は買物かごに人形をつめてG子をそこへ残したまま左の家へ行ってしまう。

### ◇九・一五

C子がかごを持って右の家へ行く。

二人の男児がふざけて家のかこの積木をなおす。母親と話している先生「あぶない、あぶない、気をつけないとあぶないわ。」先生の近くににいる子に「あそんでいらっしやい」という。C子のうちのかこいを二人の男児がつくりだす。そこへ帰って来たC子は「どうもありがとう、おとうさん。」と言う。言われたD男は首をかしげる。黒板では女兒二人絵をかいている。

②の机 絵本を三人はおとなしくよみ、まわりで三人、本の内容についておしゃべりをつづける。

右へもどったA子・B子、もう一人J子「勉強、勉強」とクレパス、自由画帖を戸棚から出して席につく。⑤の机では、お互いに相談して順番に一人の子のかくものを真似てかくことにする。一人の男児のそばへ来て「あー」と大声を出したので三人そろってふりかえって「うるさい！」と言う。男児そこを離れる。G子、ままごとをしたそうに見ていたが、A子B子が絵をかき出したのでままごとを始める。自由画をかく子五人。絵本よむ子三人。まわりでしゃべる子三人。

◇九・二〇△遊戯室VS男とI男とY男がから手のように手の指をそろえびんとのぼしてエイヤーとやっている。

S男「リー。I男今助けてやるからな。」というが三人はかってにリーとやってだんだんおっかけつこになる。R男が遊戯室へ入って来てI男に

R男「いったいどうなってるんだ?」。三人は夢中でリーといっておっかけつこ。R男もついて走る。四人はスカイジムのほり、顔に向かってリーとやっている(テレビのまねらしい)。H男とT男

は遊戯室を歩いてしたが、片すみの箱積木を出して腰かけ、隣りの組の子どもが箱積木で家をつくるのを見る。T男はスカイジムの方へ行く。隣りの組の子「入らないか。」とH男をさそう。H男「ちょっとまってね。」とT男のところへ行き

H男「おいT男、入らないか。」

T男「うん。二人入る。」

先生遊戯室の様子をみに来る。

△保育室Vビニール製ハットを持ち女兒四人、肩をくんで出て行く。唇を少し切った男児が遊戯室から入って来て、先生に手当してもらふ。

登園して来た子が先生に挨拶して、うがい、手洗いをしタオルをかける。

庭の方のドアの所で雨をみながら男児三人

「これは放射能だもん」「放射能の所へ出て行けっというんだよ」

「いやなの?」「はげになるから?」

雨の中へ出て行くのはいやだということになり、部屋へ入って来る。

左側 D男とC子は今つくったばかりの箱積木の階段を何回も何回も上ったり下りたりする。さっき教師にあそんでいらっしやいといわれたE子④の机の椅子にかけてぼんやりしていたが「入れて」とままごとに入る。D男、階段の上に小さい積木を積む。

近くで積木のシーソーをしている男児に先生「それあぶないわよ。」注意された男児、「入ろうかおれも。」とままごとに入る。

先生「お仕事したあとお椅子入れてね。こうやって。」と椅子を入

れてみせる。

C子、左側から人形三つを持って来て階段にすわらせる。電気洗濯器も持って来る。

#### ◇九・二五

E子シーソーのつてみる。

C子「先生またこぼれている。」(黒板の下に白墨の粉がこぼれている。) 先生「あらそう」

男児「もとからこぼれているよ」

先生、雑巾でふき、周囲をほうきではく。

男児「よいしょ、よいしょ、さっきより重くなったよ。」と箱積木の大きいのを持つ。「もってあげるよ。」と二人の男児でもつ。三人

の男児、ままごとの家の中へ入り、階段のところへすわって

男児「おいスクーターつくらないか。」

C子「あーら男の方ばかり。」と顔をしかめる。

D男「先生に怒られてもしらないぞ。」

先生近くで白墨の粉をはいている。二人の男児立ってままごとの家を出ていく。

⑤の机 女児の自由画をみていた男児、クレパスの箱の中にどんぐりが二つ入っていたのをみつけ

「ちようだいするよ。」と一つとろうとする。「だめ！」

相変らず友だちのをまねてかいている。

B子「こげ茶？」A子「どう。」

三人の絵をみに来たD男しばらくしてかき始める。

ひとりですまごことをしているC子、買物かごや各食器をはかりに

乗せてはかった後にスキップで左の方に行く。

ままごと五人、自由画は男

十二人女七人、絵本四人、

廊下に三人。

#### ◇九・三〇

左 C子は右からもつて来た三枚のふとんに人形をねかせる。

G子 ままごとの器をC子にだまって渡す。

C子、ままごとの家へ入って来たF子に、「ちよつとどいて、いいこと考えたから。」

F子「入れて、入れてね」とどなる。C子、こつくりをする。

先生、シーソーの上を歩いている男児に「あぶないわよ、のるだけならいいけど。」

C子、板を二枚玄関の戸の横へ敷く。(右図)

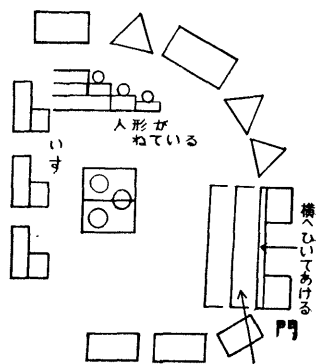
F子、家の間の箱積木をとんでいる子に、「とぶんじゃないもん、おうちだよ。」

男児「ええ」みる。そばに立っている二人の男児に「ここおうちだよ。」二人「そういえばそうだなあ。」

F子「ねえママ(初めてママと言うことはがでる)いすはどこ。」

C子「おいすはこれよ。」(箱積木を指す) F子「ちよつと、F子のおいすこれ。」(本当のいすをもつて来ておく。)

G子「どちらがお姉さん。」C子だまっている。



自由画を書いている女兒一枚書き終ると次の頁を出して続ける。

L子「あたし下手なのよ」E子「わー、L子さんすごく上手。」

N子「きれいなお花ね。」L子「この中で誰が一番うまいの。」

E子「Lちゃん上手ねー。驚いちゃうね。」

L子は得意になった様子をする。

L子「あたしのまねしないでちょうだい。」

E子「ピンクってきれい。よく書けないもの。」(白・ピンク・クリ

ーム・黒などの紙のものがとじてある。)N子「黒きらい。よく書け

ないものね。面倒くさいものね。」L子「黄色は好きだわ。」

まだ絵本を読んでいる子があり、他の子それのをのぞいている。

真似し合って書いているA子・B子達を男児見ている。

A子「これB子ちゃんのまねでしょ。これJ子ちゃんのまね。」

J子「B子ちゃんの時はピンク、A子ちゃんは白、わあー、わたし

は黒だわ。」

△遊戯室V H男とT男はまた箱積木にもどりすわっている。K男が

来る。

K男「しゅうまいもって来たよ」(べんとうの話)

T男「しゅうまい食べてやろう。」とK男の顔へ向かってむしゃむ

しゃ食べるまね。K男はT男に

K男「おまえもしゅうまいみたいな顔をしているな。」

H男「きのう運動会あったんだよな。」T男「なー。」と相づちをう

つ。

H男「平均台で10秒たっていられるか? っていうんだよ。」R男

来る。

R男「じゃ やってみよう。」とみな平均台が三台並んでいるところへ行く。H男「きのうのもっと細かったんだよ。」といって一台

だけはなして四人で片足でのり 四人「一、二、三、四……。」と

かぞえる。落ちた人に「わあー。」とはやす。

H男「おいRちゃんが一番早かったよな。」

◇九・三五八保育室V

自由画。A子「あなたまだ2冊目、1冊目?」

B子「2冊目よ。」同じ机にいる一人だけの男児時々女兒達の話

をきくが、殆んどひとりで書き続ける。

別の机でも自由画続く子「四枚目よ。」どの子も自由画帖の残

りが少ないので、それを数えつつ一日に数枚書くらしい。

A男「今日何日?」先生「今日23日。」A男「22日ってかいてある。」

自分の画帖の日付を書き変えようとする。

先生「いいわよ。日じゃなくて。」

B男自分の画帖の前の方をひっくりかえして見ている。C男がD男

の絵を見に来る。D男それに気づき自分のそばにあった本を渡して

D男「これ見ろよ。おもしろいから。」

C男は本を持って別の机へ行き読む。

左ままごと。G子「F子ちゃん、ここでぬぐ方がいいよ。」

C子がしいた板の上へ靴をぬぐ

C子「あがり口の玄関はここです。お靴ここへぬいで。」と門の外

へぬいで、門から入る。

F子、C子の靴の横へぬいでいすへすわる。

C子、小積木をつむ。

男児「今日お当番 F子ちゃんだよ。」

F子「E子ちゃんよ、F子ちゃんじゃないのよ。」

G子「うそにこれおみやげにもつて来たのよ。」積木をいじりながら。C子「ケーキ食べない。」

先生クレオン整理をしながら男児に話しかける。

△遊戯室▽先生みに来る。

H男・T男・O男・W男・K男が腰かけにすわって話をしている。

H男「K男って大きいだな。だっていつもいばっているよ。」

隣の組の子がへや中ラケットをもって走っている。皆H男T男らのそばを通る時「しっけい」をする。廊下で遊んでいた四人の女児もしたいへんなことがおこったように

「H男ちゃん。」と来る。H男は女児にも人気がある。皆立ち上り廊下へ出るがすぐ遊戯室へ入る。遊戯室に落ちていたボールをひとり拾い投げる。皆走って拾いに行く。しばらく拾った人が投げ皆が走って拾いに行くが次第に両側に分れて投げるようになる。

H男「きみ、こういうふうに投げなきゃいけないの。」とかたをつけて投げる。R男がちようどうまく受け取る。(めつたにうまく受け取れないが)H男「ほらな。」と得意になる。

#### ◇九・四〇

H男「おいきみ、何月生まれ？」といいながら投げる。

腰かけにすわっていたK男やって来てK男「審判だよ。」という。野球の審判のつもりらしい。K男「おい、すわれ」とT男をキャッチャーにする。

△保育室▽先生④の机にすわり画用紙とクレパスをもって来てぬり

始める。④の机の子次ぎつぎ先生の方をみる。

部屋中をぶらぶらしていた男児も次ぎつぎに絵かきに加わる。各机とも自由画を書きつつ活発に話をする。内容は直接絵に関係のあるものや、テレビ番組のように関係のないものなど、種々である。

A男「土曜日だろうお誕生会。覚えてる？」

それには直接答えず、曜日の話からテレビ番組に移る。

D子「今日は月曜日よ。きのうが日曜日だから今日は月曜日。月火水、つまんない、あと二日待たなくちゃ。おしおまくのよ。」

B男「わかった。なめるの？」

P子「木曜日テレビで少年探偵団。おしおまくのよ。」

A男「木曜日は、おれも少年ケニヤ。」

K子「見なきゃ。見なきゃ。」

P子「でもさー、助かるわよ××という人がいるから。」

B男「あいつって、自動車の中にもぐりこんで……。」K子「見なくちゃいけない。あの続き見なきゃ。がんばれ少年探偵団。」

先生の絵を見ていた男児画用紙を持って来てはじめる。

C男「三枚、三枚。」

自分で今日書いた枚数をそばにいる子に言う。

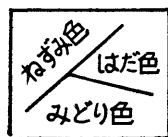
E子「そんなの驚きやしないわ。もう四枚目。あたし四枚目よ。」

#### ◇九・四五

先生画用紙に色をぬりつづけている。斜にしきり、ねずみ、はだ、緑の三色。

男児四人、女児四人先生のところへ集まる。

先生「ここへ好きな絵かくのよ。クレパスがいい



のよ。白いとこ残らないようにと色をぬりながら話す。

女児「紙ちょうだい。」先生「はい。」女児「もよう？」先生「もようじゃなくていいのよ。何でも。」ままごとをしていたC子、G子、F子それをみていて

C子「絵かこう。」G子「絵かこう。」

とままごとをそのままにしてクレパスと画用紙を取りに行く。

自由画の子もだんだん色をぬることに変更する。

C男「あのじじいの変だな。」まだテレビの話。

B男「よし、もうちょっとでおしまいだ。あとこれだけ。」C男「オレももうちょっと。」女児もノートをしまいに行き、先生から画用紙をもらい色をぬり出す。

### ◇九・五〇

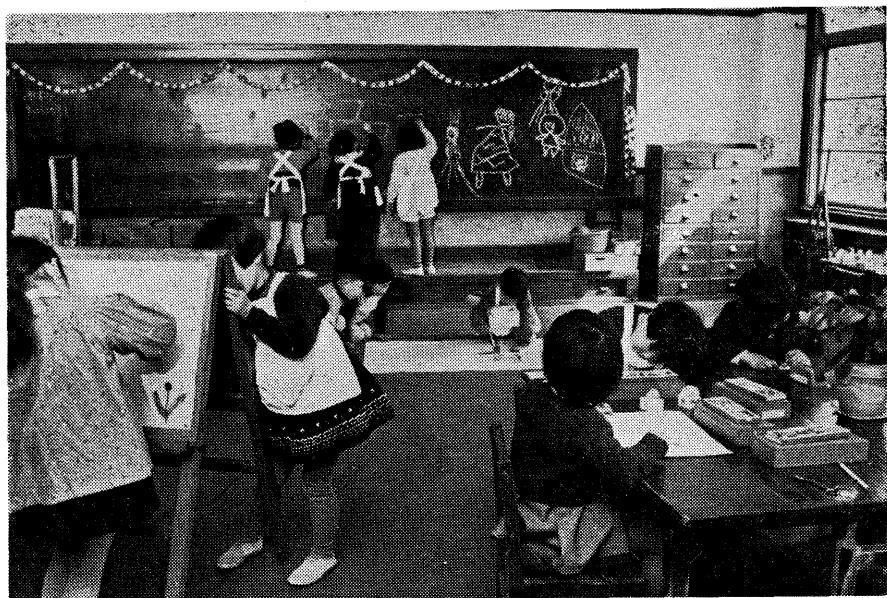
三人先生に紙をもらいに来る。先生「きれいにならないわね。ねずみ色が悪かったのね。」とねずみ色にぬったところを、細い鉛筆ぐらの竹の棒でけずってみる。（色をぬった上から竹の棒でけずって絵をかく。これを「ひっかき画」とよぶことにする）

I男「ぼくこい青ぬる。」

先生「ああそれいいわね。失敗したわ。あのね、こい色の方がいいようよ。うすい色だとよくかけない。I男ちゃんみたいな色だといいわね。」と大きい声でいう。画用紙をもらいに来たE男に緑にぬったところを指して

先生「ここならいいけど、うすい色はだめよ。クレパスがいいわ。」

五、六人画用紙をもらうために並ぶ。横から入る子に「ならんでいるのよ。」とおこる。



「先生ねずみでしょう。」「先生ねずみだめなんでしょう。」

先生「あんまりよくないわ。こい色の方がいいわ。」

E男席へもどってF男に

E夫「ねずみ色はだめだって。先生もしてみただけどうすいから。」

F男「これでいいんだ。ああおもしろい。これだ。これ一番よくつくぞ。」と自分の色を自慢する。一色を全体にぬる子、数色をもよるにぬる子いろいろある。

保育室では、ひっかき画をやっている子 男二人、女一四人、積木(男)一人、自由画、男三人の二十人。あとの十四人は遊戯室にいる。

△遊戯室Vボール投げが野球に発展。

R男「おいだれか向こう守ってくれないか。H男、ちょっとこい。」  
H男走ってR男のところへ行く。守るはずだったのに二人でキャッチボール。他の子たち審判のまわりで話。さっき入れてもらったS男自分のところへ球が来ないのでまた「入れて、入れて、ばく何?」とR男とH男のところへ行く。役が与えられたのかうれしそうに走ってもどる。ボールが皆のところへころがって来る。H男走って来て

て  
「かんとくにボール渡しなさい。」

皆ボール取りに走って行く。H男も一しよに走る。遊戯室を走りまわっていたが、遊戯室を出て保育室へ行く。

三人は箱積木で自動車のようなものをつくっている。隣りの組の子が「お片づけ」とへやへ行くのでS男「ちょっとみて来る」と保育室へ行き「お片づけじゃなかった。」とまた積木を運び出す。T

男「やめた。」とへやへ行きかけると他の二人も「やーめた。」

T男「あ、Yちゃん片づけるんだよ、ばくやめたんだから。」

Y男「ばくだってやめたんだから。」というがT男がへやへ行ってしまうのでS男と二人片づけ始め、また平均台を出して来てやり出す。

遊戯室の二人を除いて皆保育室へ入る。

◇九・五五△保育室V

ホールから入って来たN男「何しているの。」と先生の絵をみる。  
先生「この色じゃなくても、どんな色でもいいの。」「じゃばく全部ぬろう。」

先生「あそこがいいわ。」と①の大工の机を片づける。「小さい紙ですからね。こういうふうには。」と画用紙の下へ敷くわら半紙の敷き方を示す。ホールから入って来たT男、ひっかき画をしている子に「何しているの」とときき、自分も画用紙をもらいに行く。

ホールから入って来た子たちも皆席を探して始める。右のままことの机にも三人すわる。

ひっかき画―男十四人、女十四人。

自由画―男三人。

小積木―男一人。

遊戯室―男二人。

⑥の展示の机の三人の女兒に

先生「あら、そこ暗くないかしら。」「「だってすわるところがないもの。」

先生「あらそう。全部同じ色でもいいのよ。」「「かえた方がきれい



ですものねえ。」と三人話し合う。

先生「全部同じ色でもいいのよ。先生はかえてみたけど。」

## ◇一〇・〇〇

楽しそうに各グループで話し合いながら色をぬっている。

「先生、うすみどりいい？」

先生「ええ、大丈夫。」

先生は積木をしている子に「長くなったわね。」汽車をつくっているらしい。

①の机、I夫「こくぬらなきやいけないんだよ。」とN男にいう。

N男「ぜんぜん白いとこないようにしなくちゃ。」二人同じようにぬっている。I男「ほら、ぬれた。こういう色きいてこよう。」と他の机の子どもにみせに行く。

③の机A子「オレンジより、こげ茶の方がいいわ。」

B男「もう一つこれでおもしろいのあるぞ！ 半分にして上からグーグーってやると、鉛筆でな。」C男「はんがだぞ あれ。」

画用紙全部をぬって上から書くの外に、画用紙の半分だけ色をぬって、他の半分はそのままだけものを、二つ折りにして上から強くかくと他の白い部分にうつり版画のようになるという意味。

E男「水色はいいって。」

他の子たちを見て来て報告する。

## ◇一〇・〇五

②の机(自由画)男児三人しりとりをしながらかいている。

二人の子どもが先生のところへ画用紙をもらいに行く。先生「紙が小さいからこうしてね。白いとこがないようにね。」(画用紙の下

### 画用紙

#### わら半紙

(敷く紙の敷き方の説明)「先生、棒は。」

先生「はい、棒はあその箱に入っています。棒をもって歩く時は気をつけてね。」

「先生、ほら。」と全体をこげ茶にぬっている子がみせる。先生「ものすごい、それかくときれいよ。すごい。すごい。」

積木をしていた男児「お絵かきしよう」と積木をかたづけ出す。

ていねいに並べて箱へ入れ始める。

先生は遊戯室へいき、ボールをもって来る。

①の机 I男「おまえクレパスでかいたことあるか？」

N男「一回ある。」I男「たった一回、おれ何回もある。」

N男「おまえも一回か。」I男「違う、いっぱいだ。」

遊戯室にいたS男へやへ入って来る。

N男「これぬらなくちゃいけないんだよ。」

S男はうなずいて皆のをみて歩く。Y男も入って来て皆が絵をかいているので先生に紙をもらいに行く。すわる場所を探してぐるぐる歩く。

N男「先生できた。」先生「きれいいね。棒でやるときれいいね。棒もつたらきをつけてね。」

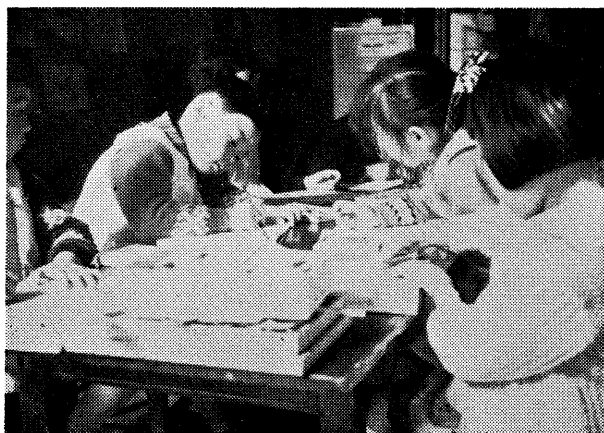
R男「先生、こんなになっちゃった。」

先生「あなたのいろいろあるから棒でやってごらんなさい。」

R男「ホラ。」とみせに来る。紙一面こげ茶。

I男「こげ茶でるか。」R男「でるよ。」

I男「茶色でもでるかな。」と棒をもって来てためしにかいてみる。



I 男「みんなで。次、何色にしようかな」とみてあるく。

③の机 E 男「僕の上手だろう？」 F 男「案外とな。ここは駄目だ。」

A 男「きみ、ねずみ色。水色どこへ行った？」

◇一〇・一〇

A 男「赤、僕へってんなあ。こんな。」

そばにいる B 男と比べる。

B 男「ちょっと休むか？」 F 男「もう書きちゃったの？ でもよく

だってもう終りなんだからな。」

A 男「僕もう少し。E 男はどうだ

？」 B 男「E 男はまだまだ。ボクの方

が早いよ。こんなに書いたもん。」

G 男「赤だってす

べるぞ。」(既に赤

くクレパスでぬつ

た上にもう一度書

くとすべるようにな

めらかに書けるという意味)

バスと、その色のみでぬりつぶした画用紙を持って見せに来る。

A 男「そんなに小さくなっちゃったの？」 H 男「そうだよ」

H 男がそれを先生に見せに行く。

先生は棒をまっすぐにしたり、斜にしたりしてかいてみる。四人の子どもみている。

H 男「先生、クレオンこんなになっちゃった。」

小さくなったクレオンをみせる。先生「ほんとだ。」

③の机 書きつつ話題がテレビの番組の事になる。

B 男「きみ、あのね、土曜日のズバリあてましようみた？」

A 男「ゴーストストップ見た？ 10 時までおきられるか？ こいつ。」

F 男「10 時から 12 時まで起きていられる。」

◇一〇・〇五

A 男「ねー、前の土曜日なんて……もうあてにならないな。このやつ 9 時だろう。11 時だろう。ずいぶんちがうなあ。こいつ 6 時にねちゃうんだ。」

自慢しあっていたのが、次に相手を軽蔑することばに変わる。

F 男「クレオンどの位へったかみにいこう。」

G 男「へれば先生にもらえるんだぞ。」

④の机 R 男「ね先生、茶色いい。」と教師の肩に手をかける。

先生「ええいいですよ。」 K 男「棒は。」

先生「はいあそこ。」

I 男「積木を片づけながら先生の絵をみている。」

M 男「黄色いいでしょう？」先生「あんまり良くはないわよ。」

G 男「先生、こんなになった。小さいクレオン。」

先生「一本が？　こんな長いのが？」G男「そう。」

先生「わあすごい。こんどあげますよ。」

この会話をきいている子どもに

先生「あんなにクレオンいれるんですって。」G男「先生、ひっかくもの。」

先生「あはははは、ひっかくものあそこよ。」

こげ茶色にぬれたものをみせる。

先生「わあすごい。」T「あなたたち……机一つあけてあげましょうね。」⑥の机の上の展示物を片づけ四人すわらせる。

I男「赤でる？」先生にきく。そばにすわっていたL男「でる。こんなになっちゃった。」とみせる。

I男「わあ。でるか。」と席にもどり赤でかき出す。

先生「こうするのと、こうするのと。」と棒の傾斜をかえてかいてみせる。

L男「うしろ（竹棒のとがっていない方）でもいい。」先生「ああ、おもしろいわね。」

③の机　B男「おかたづけー」

A男「先生おかたづけじゃないよね。」おかたづけではないので、他の子たち続ける。

A男「うれしいなあ。もうおわりだ。」

C男「でもお弁当じゃないぞ。」

A男「おーわかりました。さよーなら」

歌うように言って、先生のところに行き竹の棒をもらって来る。

A男「わあーい、やりましょう。」

F男「宇宙船シリカ。あの歌ね。英語だぞ。」

B男「スーバーマンうたえばいいんだが。」

F男「むずかしいぞ、本当の英語なんだぞ。でもこういうネ、なら書ける。こういう字なんだ。ト。」

（画用紙に竹棒を使って何度か書く。）

B男「ト？　かたかな？」

F男「うん。これト、っていう字なんだ。こいつ何にも知らないんだな。よくせつめいしてあげる。」

F男は違う字を書いて、そばにいる子に尋ねる。

F男「これはなんだ？」A男答えるが、ちがっている。

F男「残念でした。セ。」A男「そう読むのか。」

F男「こうだろう（ひらがなのせの字を書く。）半分とればかたかなのセ！　お前も案外知らないな。」

E男「ああ、あいつもうすぐ終りだぞ。」G男「二人できちゃった。」

H男「浩宮一歳だぞ、一歳だぞ。」

I男「この位のトラックあったろう？（玩具のトラック）あれにのっちゃうんだ。」E男「うあー赤よく出るなあ。赤スベスベだよ。」

I男「うすい赤でも。」ときっきの子に聞きに来る。「何かこうかな。」と男児が先生のそばで一人ごとをいっている。

先生「なんでもいいわ。すきなこと。」

積木の子もやと積木を片づけ、製作帖とクレオンをもって歩く。

◇一〇・二〇

⑥の机　先生「こういうふうにすると大きくけづれるわよ。」と棒を斜にかいてみせる。

G 女児	B 男児	力ひ    力ひ ー ポ ン 紙 の 絵
------	------	--

[illegible]

⑤の机の子の袖をまくってあげ、絵をみせに行く子に先生「かくだ斜にしていけずってみせる。子どもけずる。「ああそう、ええそう、そういうとこけずっちゃうのよ。そうするとおもしろいわ。」

「何色？」とききに來た女兒に、先生「みんなのみてまわってごらんなさい。」という。

②の机 三人の男児はずっと自由画をかいている。積木をやめた子もすわって自由画をかき始める。

G男「あー僕　そんな。黒にすればよかった。」

H男 「これいいだろう？ 白くう

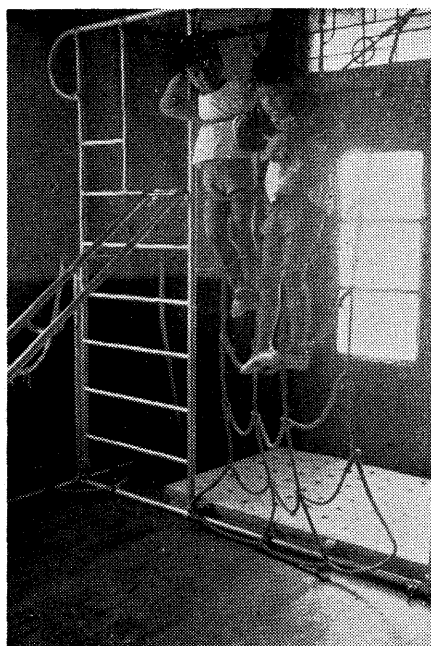
「まくだらないなあ。」G男「そう。」  
A子「赤ぬつといてよかったわね。」G男「僕も赤だもの。」

E男「きみだめだなあ、赤じゃないぞ。でも赤に似ている。」

G男 「いいの。」

竹の棒でけずりながらI男「く  
もりこれ、いろんな雲ってあそ

30	25	20	15	10	5	11 0	55	50	45	40	35	30	25	20	15
	G 8	G 3	G 3	G 3	G 3	G 3	G 2	G 1							
	黒板	カ自由画	黒板	カ自由画	黒板	カ自由画	カ自由画	黒板	ひ自由画	ひ自由画				ひ自由画	ひ自由画
	GBB 5 5 2	GBB 5 4 2	"	GBB 5 4 1 2	"	"	GBB 6 2 2	GBB 1 8 3	"	GBB 13 9 3	"	"	"	GBB 18 13 3	GBB 18 11 3
								B 3							
全員おべんとう	大工 B 3	大工 B 2													
						GB 3 9									
	GB 5 7	GB 6 13						B 5	B 5						



N男「おい、おい、てつだってくれよ。」I男「ちょっとまてよ。ここぬったらな。」N男「今度何色出る？」とI男にきく。

# ◇一〇・三〇

先生、棒と共にのりべらも箱へ入れておく。

④の机 先生「力を入れると出て来るわ、力が足りないのよ。力を入れると出るのよ。」とやってみせる。

G子「わたし力あるもの。」

⑤の机 先生「もっと力を入れるとほら、ゆっくりしなきゃだめよ。」

先生「あらI男ちゃん力があるからとてもきれい。そとかくとだめよ。縦にしたり、横にしたり。」

先生「ほらS男ちゃん、みてごらんさい。こんなにきれいよ。」と

I男の絵をみせる。

③の机 H男「みどりてるよ先生。」先生「ほんとね。ほんとね。」

C男「先生おもしろくかけたよ。」

先生「あら。」F男「ガガガー、スーバーマン あのね こういう羽根なんだ。飛行士帰っちゃうんだ。」

E男「あのインディアン強そうだな。」B男「トント？」

K男「そう、おもしろい名前だな。」

別の机からI男が絵をのぞきに来る。F男「おまえ行け。じゃましくなくていいの。」

I男「みたっていいだろう。」

F男「おまえのもみせろ。」

I男自分の席にもどり、絵を持って見せに来る。F男自分の絵を裏返してしまう。

I男「うあーずるいぞ。」F男はちょっと開いて見せ、またふせる。

F男「わあーつかれちゃった。」やめてしまふ。

K男「E男バカっていう人ね。イエース。」

といいながらE男の横を通りすぎてしまふ。

G男「ちがうというのは、ノーといえはいいのだ。」

E男に教えてやる。終ってしまいやめる子が少しでてる。

F男は友達絵を見て思いついたらしくF男「オレ木書こう、木」

簡単に竹棒で書き、先生の方に持って行く。

F男「はいでき上り木。これめちやくちゃんんだ。」E男「よくわかりました。どうせF男ちゃんが隊長なんだろう？」

F男「お兄さんだから。僕のお兄さんは××さん。力は僕よ

り弱いだろう？」E男「うるさい、うるさい。」

F男「おまえ筋肉ふくらましてやろうか。(相手の腕をさわってみる)すぐかたい。あのね遠足の時ね、僕倒しちゃう。原水爆弾これやっつけちゃう。ジェット機、ジェット機がとんでくるの。」

B男「これだれかに貸してあげる。」

竹棒を置いて、仕上った絵を持って先生の方に行く。

G男「もうやってるのか、早いあいつ。」I男「こんなにきたなくなっちゃった。」B男「オレはもう使わないからいい。」

K男「ローレンジャーって知ってる？二丁ケンジュウ持ってるから、正義の味方だから。二丁拳銃持ってるんだ。」

#### ◇一〇・三五

「ぼくみせてあげようか、ほら。」先生みる。

「今何時、先生。」先生だまって時計みせる。「三十分か。」

先生けずってみせる。ぬれた子みせに来る。

先生「はい、あそこにくうするの(棒のこと)ありますからね。」

かけた絵をみせに来る。

先生「いいわよ。あらずい分いろいろかいたわね。」かけた第一号の絵を受けとり立つ。手を洗って他の子の絵をみる。「手を洗っていらっしやい。」と絵を受け取り、名前をかき、ノートに記入する。

#### ◇一〇・四〇

「先生かきました。」先生「あら、ここおもしろいわね。あら、これおもしろい。手を洗っていらっしやい。」

先生「あなたのもようね。あらいいわね。」

三人受け取る。子どもたち手を洗いに行く。先生、立った子の椅

子をなおす。手を洗った子どもたち、自由画帖をもって来たり、他の子の絵をみたりしている。

先生、次々に絵を受け取っている。「ああいいわ、手を洗っていらっしやい。」「あらいいいじゃない。ここもいいわね。」

さっきおかあさんとしてままごとをしていたC子、絵をみせに行く途中箱積木の家を見て、「あせつかく人がつくったのに、こわしちゃった。」という。先生「こうしてけずれば？」とやってみせる。

先生「あらいいいじゃない。あなたのは横のもようね。」

「先生できました。」先生「あらあなたのもいろいろなのがあるわね。」今までに十人の子が出す。

終った子は手を洗い、ままごとや箱積木、廊下での走りっこに移る。書いている子で、少々あきてしまった様子の子が二、三人いる。先生が子ども達の出来具合を見てまわっている時、数人の女兒もしょについて歩く。

先生、紙に子どもの様子をかく。

Z男クレオンをヒコッキにしてブーンといっている。

I男「おれ、ちょっとみてくる。」

と席をはなれ、すぐもどって棒でけずりはじめる。

I男「はながならんで書いていました。そこへお兄さんとエスがきました。そこへおおかみが来ました。」といいながらけずりつづける。

かき終ってつみ木をしたり、ままごとをしている子どもがだんだん多くなってきた。

#### ◇一〇・四五

四人の子ができた絵を先生のところに持っていく。

先生「こうするとけずれるのよ。」とかいている子に説明する。

「シーソーしようね。」という二人の男児に

先生「ちゃんとしまったの、あなたたち。」二人しまいに行く。

先生「おやおや忘れたのね。それからお椅子もちゃんと入れて。」

先生「おやおやよくなったわね。」先生「ああいいわね。」

三人の男児、ままこの家をこわして中へ入る。黒板にかいてある女児の絵をみて「これたれ。」「H子ちゃんよ。」「これは。」「わたし。」と話していると、絵を出して来たC子家をこわしたことをおこる。

男児「君たち何もしないじゃないか。」C子「だって先生が……。」（絵をかきましようといったという意味のことをいう。皆が絵をか

き出したのを見て自発的にC子も参加したのだが、先生の意図した

絵をかいたため、先生にかけといわれたと意識の上では受け取っているらしい。）先生「C子ちゃんお片づけ。」C子片づけに行く。

A子「先生いいっていったわよ。」B子「よかったわねっていったわ。」先生「これおもしろく考えてあるじゃない？」

C子「うあーE子ちゃんのいいわね。きれいですてきねー。」

出来上った子は先生に持って行く。

#### ◇一〇・五〇

三人男児家をこわして、自動車をつくりだす。「これモーターだよ。」

先生「やりかけの人はやってしまつてね。」

出しっぱなしの椅子を中へ入れる。みせに来た子の絵をみて「あら出たわね。よくでたわね。先生へただったのね。ぬり方がいけな

かったのね。ちゃんとよくでている。（先生がさっきねずみ色にぬ

ったらよく出なかったの、ねずみは使わない方が良いといった

が、この子はねずみを使いよく出ているのでほめている。）ここおも

しろい。ちゃんと考えてあるのね。」人間の頭の形に色が変わてあ

るところを指してほめる。先生椅子をなおす。

子ども「今日ね、おペンとうあるの？」先生「あるのよ。机の上に

楽器が出てあったのでF子がタンハリンをたたく。

G子「うあーうるさい。」

へんな顔をしてF子の方をふりかえる。

H男「やーだなやだな、F子ちゃんはやだな。」

#### ◇一〇・五五

C子「先生もう一枚やっていい？」

先生「どうぞ。C子ちゃんそれ半分の大きさにしたら？ぬるのが

たいへんでしょ？××ちゃんも。」C子「一枚いらないうわ。」

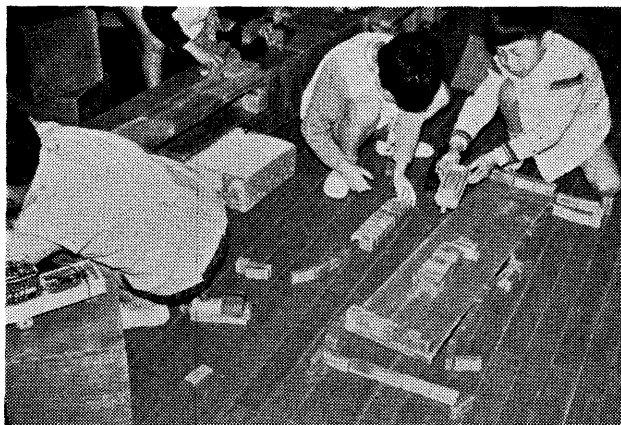
先生、絵を出しに来た二人の絵を受け取り「これもいいわよ。」「これもいいわよ。」「あそんでいい？」（やはり自由あそびと先生の意

図する絵とはこの子も区別している）先生「いいわよ。今日は雨が降っているからお外へはでられないわね。」「××ちゃんいいわね。」と受け取る。

ままこの家のところにはだれもいなくなる。だーんだーんとピストルごっこをしている二人の男児をみて先生「あはははは。」と笑う。

先生、画用紙の半分に色をぬり、二つに折ってカーボン紙のよう





した箱積木を並べながら）あんまりひどいわ。」と言いつつその上に人形をすわらせる。

ビストルごっこの子、遊戯室まで追いかける。

女児机を出してままごとをはじめめる。

B子「ただいま」

ぬいぐるみの兎を持って来る。

C子「今日は赤ちゃんの大好きなリンゴジュースよ。」

B子「ふとん一枚買ってくる。」

C子「おかえんなさい。」

B子「ただいま。」

兎に帯を使ってせおう。机の上に、コップを並べて、お茶の用意をする。コップのはしに手をふれて倒したのを

C子「あー」とあわてて、あたかも中にお茶が入っているかのようになおす。

書き終ってしまった子が、まだ書いている子に、

F男「D男遅いな。頭にくつつけてやる。」（画用紙を頭につけるという意味）D男「先生F男ちゃんに頭にくつつけちゃうの。」

先生「くつつくわよ、それ。」

F男そのまま行ってしまう。

ままごとをしている女児グループに入りたがっている子に

C子「コップとお皿持っていられっしやい。それからお椅子もね。」

女児椅子やコップを取りに行く。

◆一・〇〇

最後まで積木をしていた男児はいていぬいに飛行機をかいている。

この子とあと三人の男児は先生の意図する絵には入らなかった。

六人の男児が廊下で走りっこをしている。「ヨイ、ドン」とお互いに合図をするが、二人位しか走り出さず、何度もやりなおす。やっと四人が走り出すが、二人はテレビ室に入ってしまった、他の二人も廊下を途中まで走って行き、すぐもどって来てしまう。次に一しよに走り出すが、数人の子は途中で待っていて、遊戯室まで行ってもどって来た子と一しよに走ってもどる。

「ヨーイ、ドン」で二人走り出すと、他の見ている子は「マケロ、マケロ」ときかんに言う。

女児も数人入り二人ずつの組を作り、そのうち一人ずつ走る。

走り出してすぐもどって来て「カーッタ、カッタ」と大声をあげて、遊戯室まで行って来た子をはやし立てる。

#### ◇一・〇五

⑤の机で三人の女児カーボン紙をつくるため色をぬっている。順にリーダーをきめ、そのリーダーのぬり方をあとの二人はまねをしてぬっている。真ん中に丸く月のように黄色でぬっている。楽しそうにおしゃべりしながらやっている。先生、机の上のクレオンのけずりくず（棒でけずってでる）を雑巾でふいてまわる。廊下をとおびまわる子に「あぶなくないようにあそびましょうね。」椅子をなおります。床をはく。

時々トライアングルをたたいてみる子がいる。三人の女児「あわせようか、一、二の三。」とぬった画用紙をふる。「一、二の三、まだよ。一、二の三。」と三人合わせてぬった方を内側にして二つに折る。棒で絵をかきだす。他の子どももみていて「あなた鉛筆でかくのよ。」

#### ◇一・一〇

三人だまってかき三人一しよに紙をたたく。「一、二の三。」「あれあれあれ。」声をそろえていい顔をみ合わせて笑う。「ほらついた。」「ついた。」「ついた。」黄色いとこどうなっているの。「先生にみせてこようか。」「みせてこよう。みせてこよう。」「わたし行こう。」と三人立つ。先生、種々の色のついている自由画帖の黒い紙に白いクレオンでかいている子に「ああ黒にはそれがいいわね。」三人がみ

せに来る。先生「ああきれい。これきれい。」「もう一枚やろう。」と三人紙をとる。「今度もっときれいなをつくるわ。」「わたしも。」「何色でしようかな。」「わたしも。……水色でしましようか。」「黄色にしようか。」「むらさきは。」三人赤、ねずみ、むらさきと画用紙の左上はしから同様に細かくしきってぬり出す。「みんな同じにしたらわかんなくなるじゃない。」「わかんなくなるじゃない。」「名前をかけばいい。」先生、箱積木や小積木を片づけている。

一人の女児②の机でやはりカーボン紙のようにぬり二つ折りにして、へらを横にしてこすり、また縦にしてこすりちよつとあけてみる。「先生、ねずみ、幼稚園のお庭に、このくらいいのねずみ。」庭をみていた男児がけたたましく先生のところへとんで来てねこぐらいの大きさをしてみせる。先生「あら、ねこじゃないの。」みんな庭の方へみに行く。絵をかいている三人の女児「こわい、こわい。」とだし合い、立ってみに行く。

#### ◇一・一五

（廊下）K男「どこでも好きな所か。」G男「好きな所はダメ。」

F男「どこまで行くんだよ。」

G男「おゆうぎ室まわってくるんだ。」

一しよに走り出してもどって来てK男「バカなやつだ、テレビ室一周でいいったら、あんな所まで行っちゃうの。」

G男「かけっこするものこの指とまれ。」

人数が十数人にふえて同様に続ける。廊下で別の男女グループ、一人を二人ではさみテレビ室のすみにつれてゆき、手を波のように動かし、顔の前でふらふらさせて「ねむれーねむれー」と目をつぶ

らせる。その後「隊長つれてまいりました。」と他の子に話す。

ちがう男児に、「ねむれー、ねむれー」と同様に近寄るが

「わたしは、だまされないとぞ、機械だも。」

「ねむれー、ねむれー、機械よ動け。」「いいのもう眼をあけて、この人いい子ですからはなしてあげる。」

子どもが目をあけるとまた手を動かして、「しあわせになーれ、しあわせになれ」と走りまわりさぐ。

#### ◇一一・二〇

最後まで積木をしていた男児は何枚も飛行機ばかりかく。同じ形であるが毎回方向は違い、黄、青、黒でていねいにかく。

三人の女児人形をだいてまゝことを始める。先生、小積木を片づけている。一人の女児手伝う。何人か部屋の中であばれている男児の方を「ほら。」と手伝う女児をうながしてみる。一人でカーボン紙の絵をかいていた子、先生にみせに行く。先生「ああほんとだ。」

ずっと自由画をかきつづけた一人の男児、飛行機ばかりかいている子の横へすわり一しよにかき出す。「ほらこんなになった」とお互いの絵をみせ合う。先生、積木の片づけ。

#### ◇一一・二五

二人の男児が大工仕事の机の上で、板に釘を打ち始める。

五人の女児うさぎのお面をつけてまゝごとを始める。

並んで自由画をかき出した男児自分の自由画帖を指して「ここへかいて。」「や。」「じゃんけんして勝つたら。」「や。」「や。」

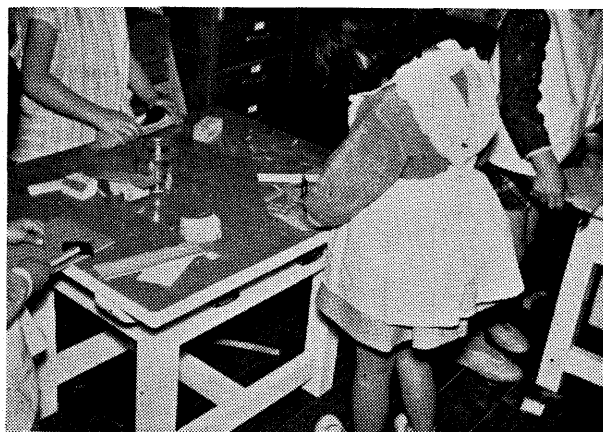
三人一しよにかいている女児少しずつ一人ひとりの個性が現われだし、途中から別々の色や形に発展している。

ろうかでは走りっこをしていた子ども達がゆうぎ室まで行く。ゆうぎ室では二歳児がスキップをしていたのでゆうぎ室の中の両側においてある腰掛にすわり、ひとりがピアノのところに行き、みていかどうかを先生にたずね、しばらく見てまた廊下に出て走る。そのうち、三人がジャンケンをしてすわりおにをはじめる。「Y子ちゃんのにおにだよ。」Y子うしろからワットいつてつかむ。おに、こ

Y子「おにのいな  
いまにせんたくじ  
やぶじゃぶ。」

Y子「おにさんこ  
ちら、手のなる方  
へ。」ゆうぎ室から  
出て来て、ひとり  
加わる。おにと入  
って来た子どもが  
じゃんけんをする。  
じゃんけんをし  
おわったその瞬間  
に「つかんだ」と  
いう。

そこへまた「入  
れて。」と二人来る。  
じゃんけんしおわ



って、ようやくおにがきまっただころにまた、入れてと入って来るので、おにごっこがなかなかはじまらない。とうとう14人になった。「だれ？おに？」「N子ちゃん。」はじめからいた子はあきたらしい。「1やめた。」「2やめた。」といってみんな部屋にいく。

◇一一・三〇～一一・四五

先生おべんとうの用意を始める。お茶を取りにいったりする。子どもたち自発的に片づけ始める。子どもたちは手を洗い並んで各々の名前のかいてあるアルミニウムのおぼんをもらう。おぼんをもらった子はどこにすわろうかなと部屋中をみまわしたり、友だちの分までとって「〇〇ちゃんにとっておいたよ。」「〇〇ちゃんここがい。」という子さまさま。

◇一一・四五～五〇

二人の当番が手を洗うと一しよにお湯をつぎ始める。各々席についておべんとうのつつみを聞く。ふたをあけて「わたしのだいすきなもの」といってとなりの子どもに見せる。各グループが楽しそうに話しながら準備。お湯をつぎ終ると、あちこちから「シー。」という声、だんだん静かになる。先生はピアノの椅子にすわってじっとみている。みんな静かになっても二三人の子がおしゃべりする。

先生「いわれなくてもちゃんとできる方もあるし、いつまでもできない方もいろいろあるわね。今日はお食事の約束を思い出しながらしましよう。」と手を洗うこと、うがいをするなど一通り注意をして、「いただきます。」という。子どもも「いただきます。」といってたべはじめ。

